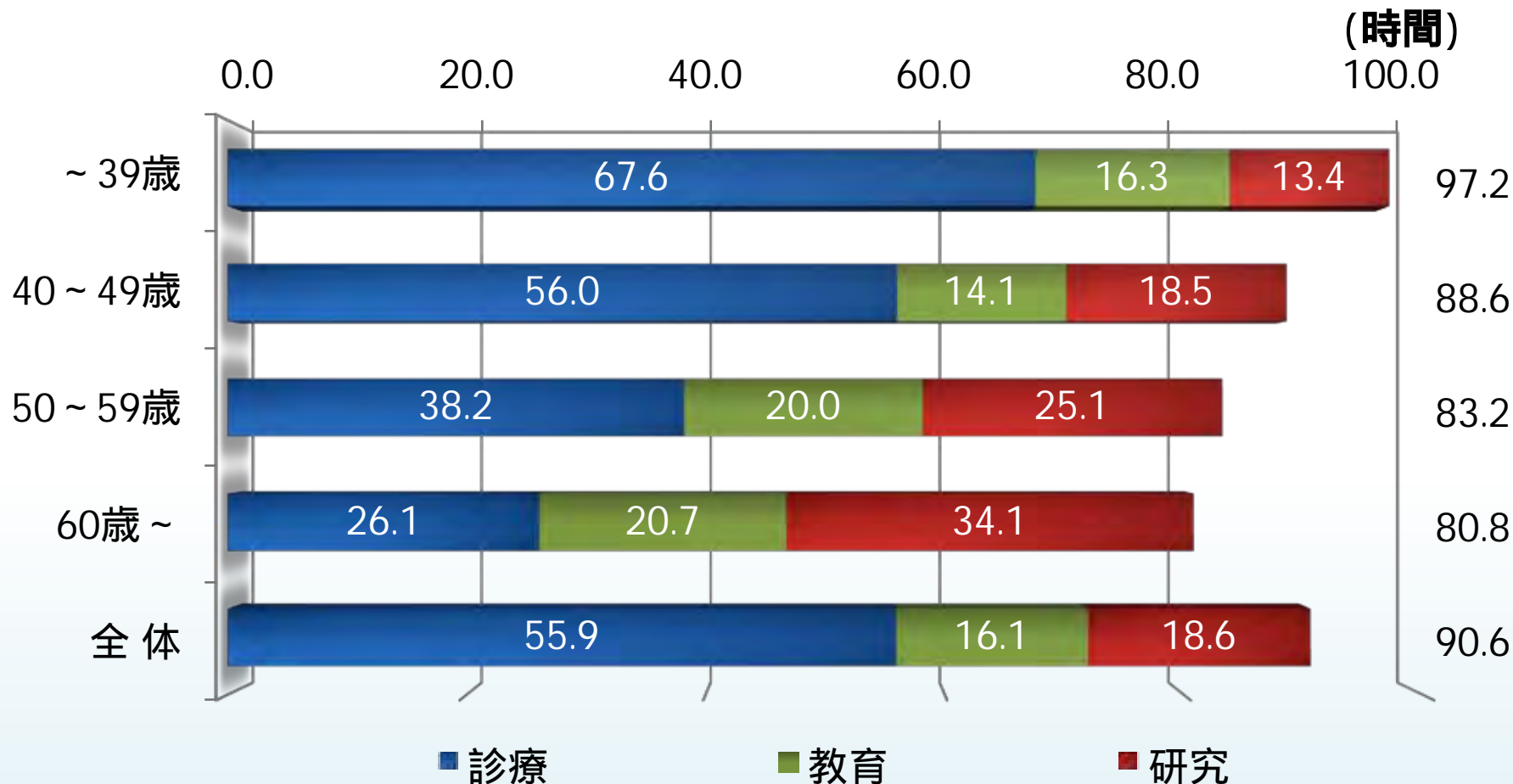


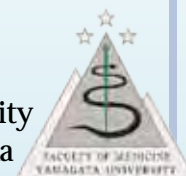
特定機能病院の医師 勤務時間・処遇



特定機能病院勤務医の1週あたり 平均勤務時間（当直含む）

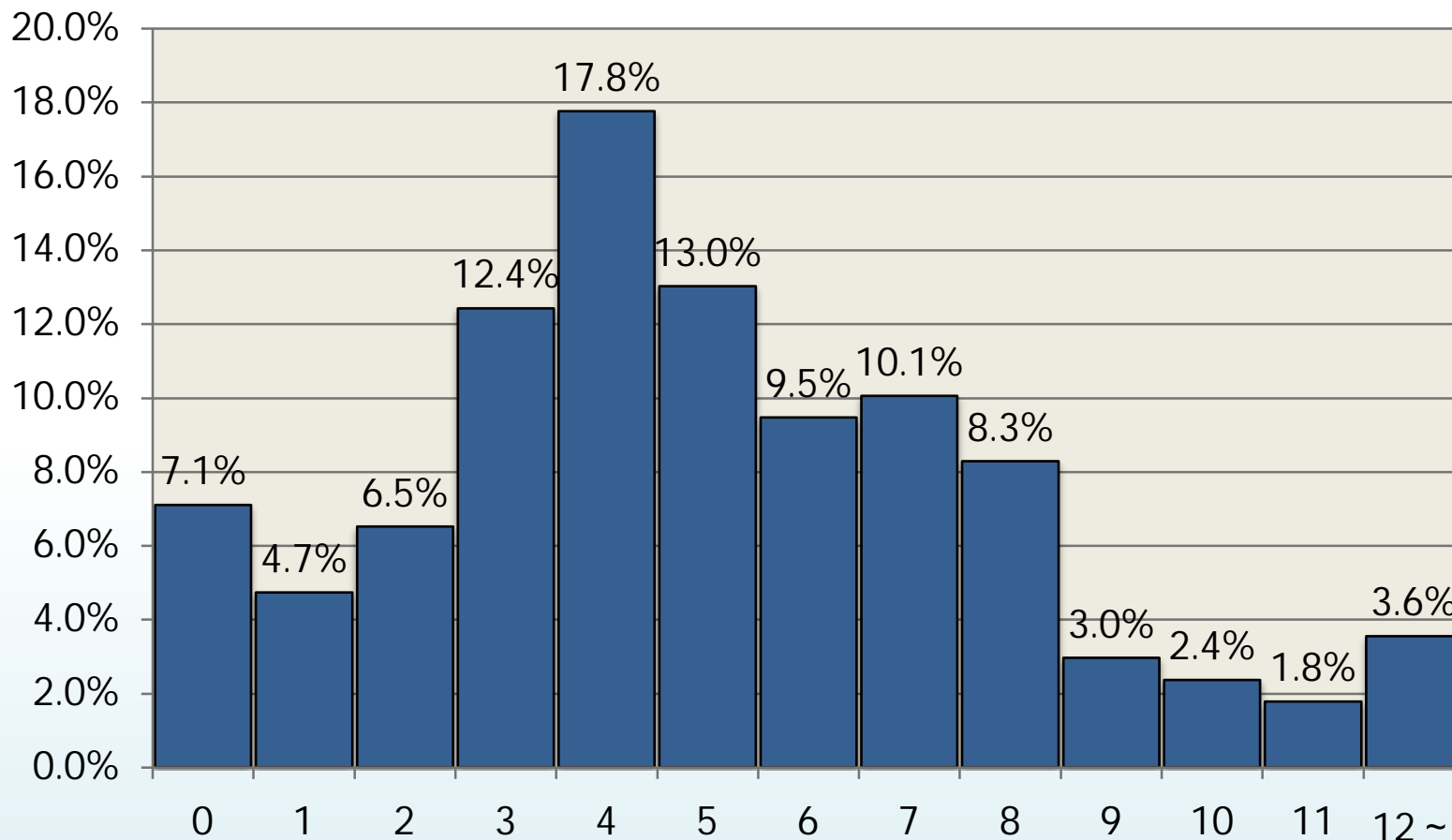


国立大学協会調べ、国立大学法人A大学(2008年度)



特定機能病院における若手医師（20～30歳代）の 一月あたり宿日直回数

69%の医師が月4回以上の宿日直を行っている(平均5.2回)



国立大学協会調べ、国立大学法人A病院(2008年度) (回)



医学部教授・助教（勤務医）の給与の実例

基準給与簿											
平成21年10月1日～10月31日											
機関		所属		氏名		(4)現金支給額	(5)振込額	手取り額			
国立大学法人		医・		50歳 教授・既婚		395,641	395,641	←			
学号区分	職号	給与期間	職名	(1)金額	(4)基本給支給額	(5)扶養手当	(6)地域手当	(7)管理職手当	(8)住居手当	(9)単身赴任手当	
50	教(一)	21.10.1 21.10.31		0	507,700	11,500	0	0	0	0	
超過勤務時間		(10)超過勤務手当	(11)期末手当	(12)勤続手当	(13)初任給調整手当	(14)特殊勤務手当	(15)特地域勤務手当	(16)寒冷地手当			
0025	00100	02125	03135	04150	05160	0	0	24,000	0	0	0
その他		(17)日直手当	(18)通勤手当	(19)給与支給総額							
33,000		0	0	576,800							

手取り月額
39.5万円

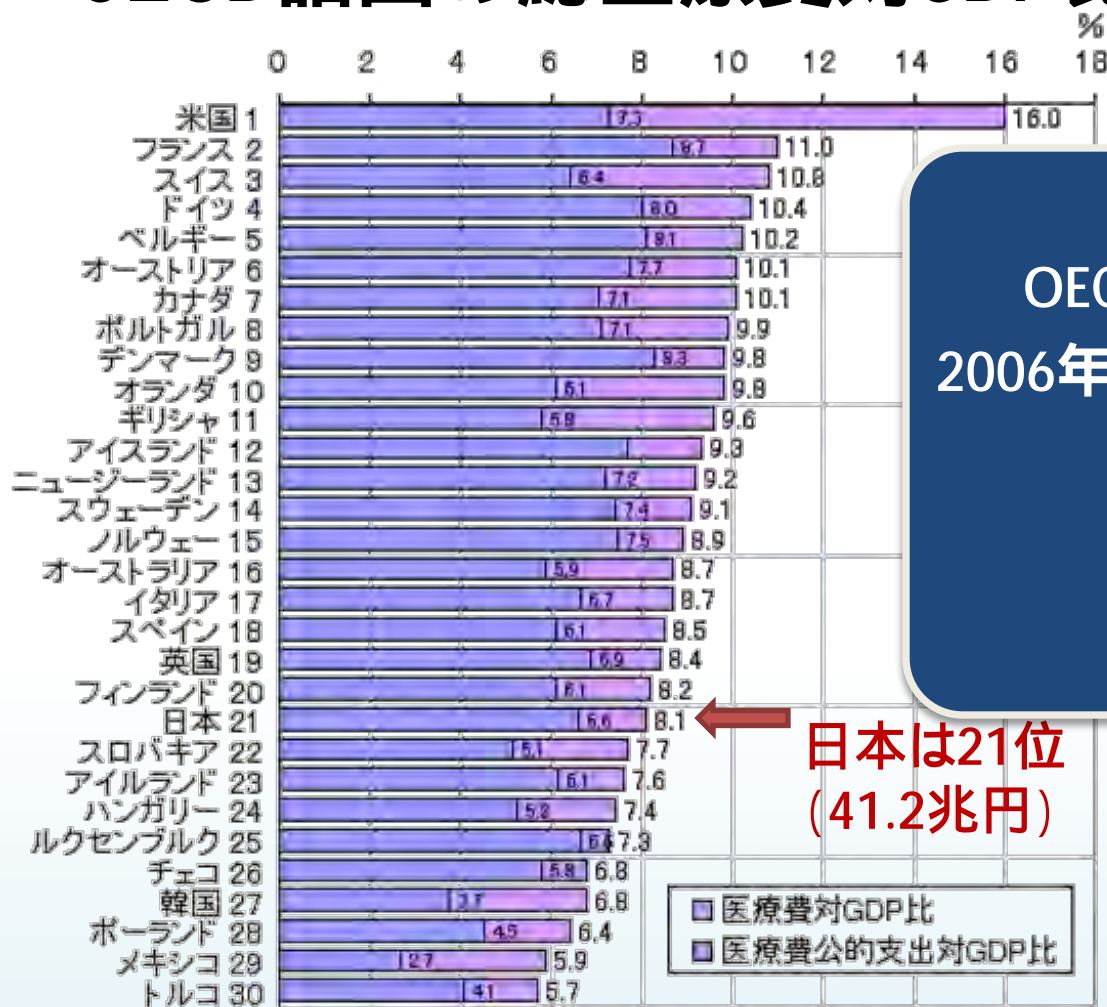
基準給与簿											
平成21年10月1日～10月31日											
機関		所属		氏名		(4)現金支給額	(5)振込額	手取り額			
国立大学法人		医・		34歳 助教・既婚		267,175	267,175	←			
学号区分	職号	給与期間	職名	(1)金額	(4)基本給支給額	(5)扶養手当	(6)地域手当	(7)管理職手当	(8)住居手当	(9)単身赴任手当	
50	教(一)	21.10.1 21.10.31		0	324,800	32,500	0	0	27,000	0	
超過勤務時間		(10)超過勤務手当	(11)期末手当	(12)勤続手当	(13)初任給調整手当	(14)特殊勤務手当	(15)特地域勤務手当	(16)寒冷地手当			
0025	00100	02125	03135	04150	05160	0	0	50,000	0	0	0
その他		(17)日直手当	(18)通勤手当	(19)給与支給総額							
0		0	0	434,100							

手取り月額
26.7万円

信用金庫の32歳
手取り月額は、
31.8万円

学部の臨床系医師教員の給与は大学本体からの支払い。
教員は無償で病院で従事してきた。
(A大学の場合、学部臨床系教員は97名。病院所属教員は85名)

OECD諸国の総医療費対GDP比率（2007年）



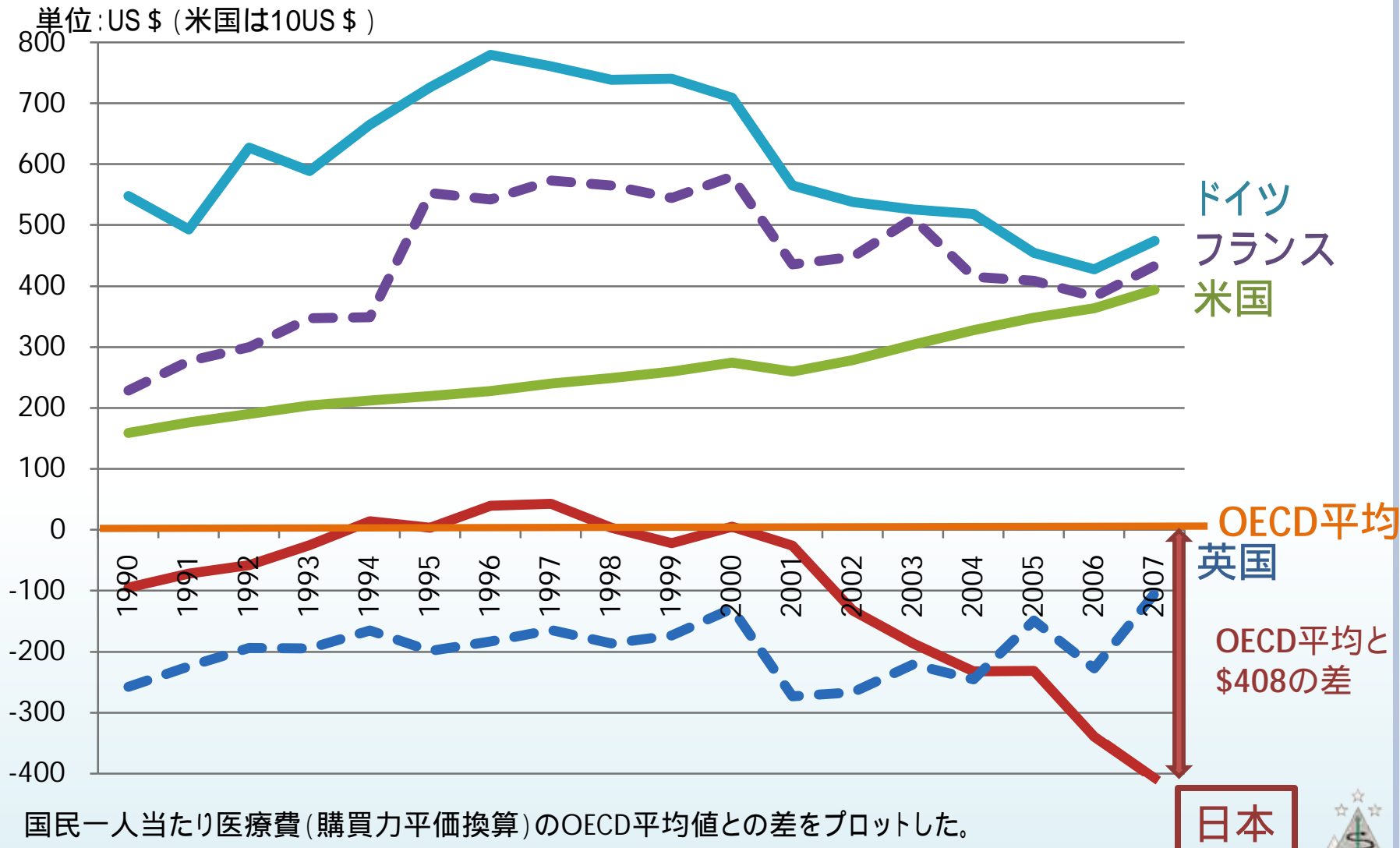
日本は21位
(41.2兆円)

日本の総医療費を
OECD平均(8.9%)にすると、
2006年名目GDP(508兆9,251億円)
× 8.9%
= 45.3兆円
4.1兆円 の増加

■ 医療費対GDP比
■ 医療費公的支出対GDP比

(注) ポルトガル、オーストラリア、日本、ルクセンブルクは2006年データ、トルコは2005年データ。公的支出対GDPは公的割合から算出。ただし対GDP比と異なる年次の公的割合はニュージーランドは2006年、オランダは2002年、ベルギーは1996年。

国民一人当たりの医療費 ～他国と差が開くばかりの日本～



国民一人当たり医療費(購買力平価換算)のOECD平均値との差をプロットした。

OECD, Health Data 2009; UN, World Population Prospects



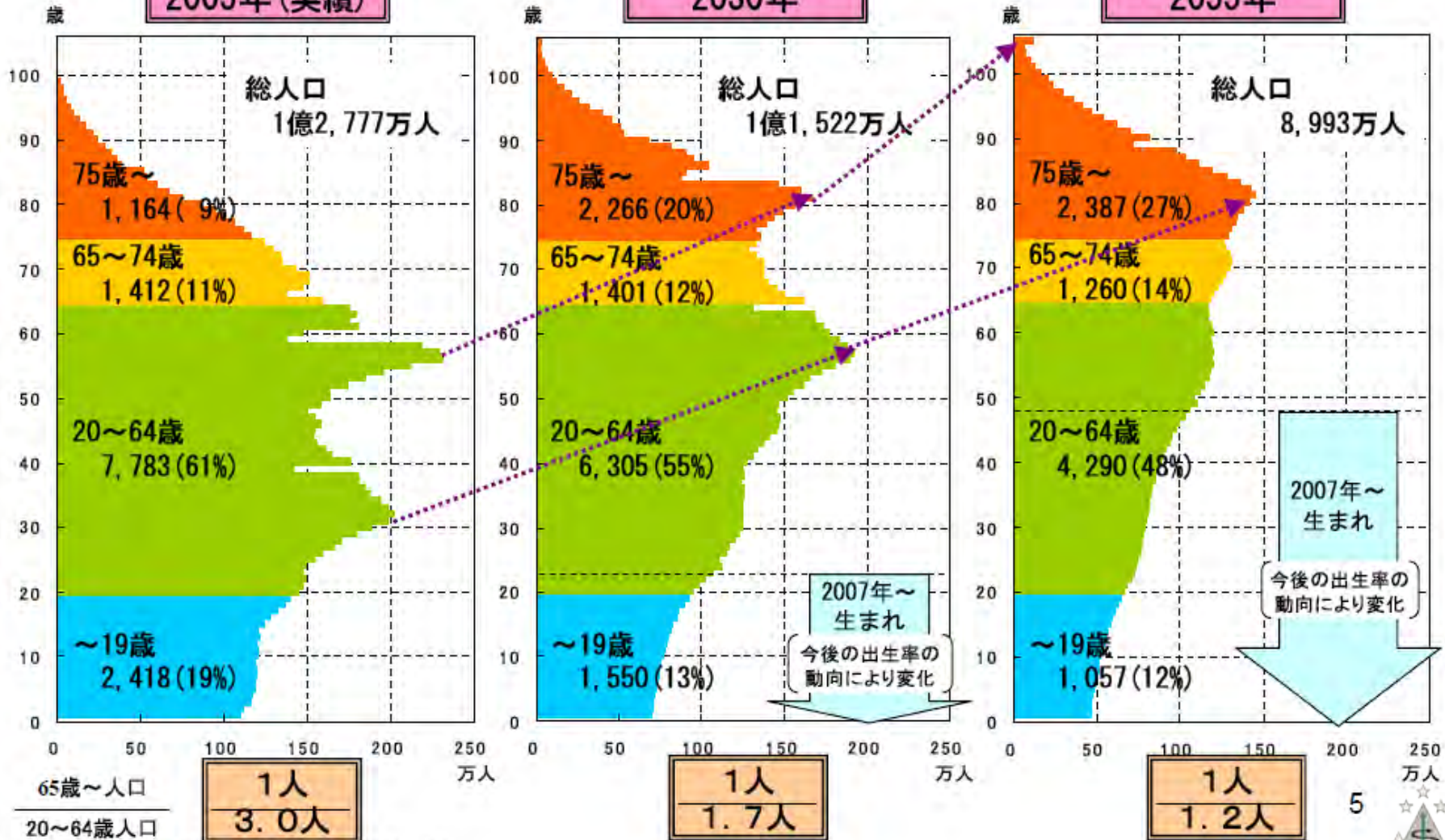
人口ピラミッドの変化(2005, 2030, 2055) - 平成18年中位推計 -

○我が国の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を3人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2055年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定

2005年(実績)

2030年

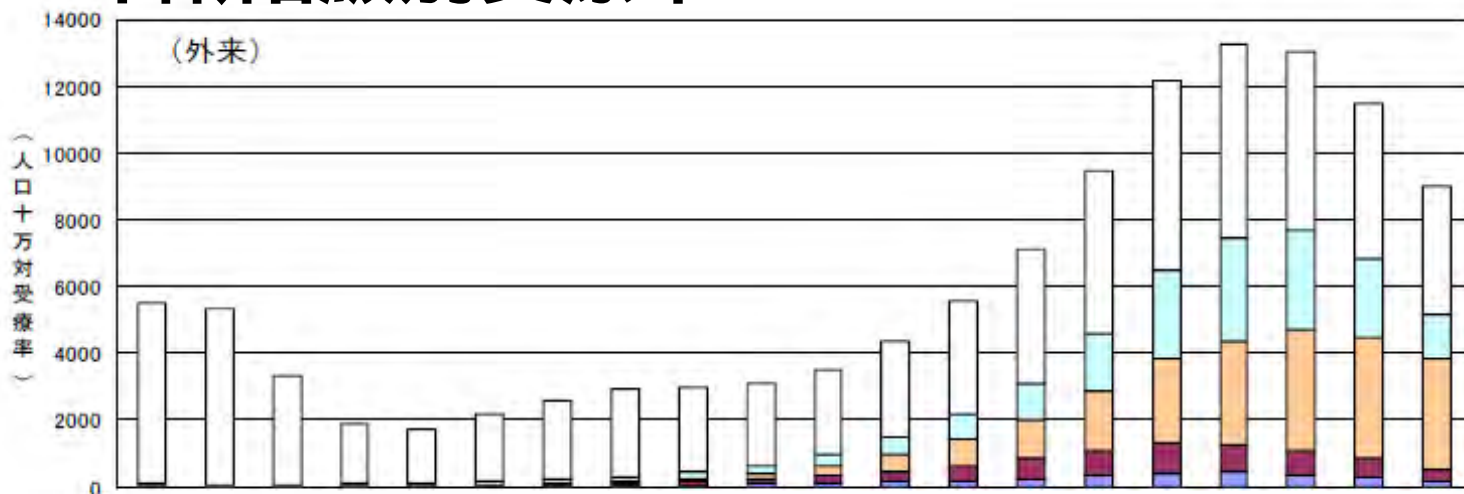
2055年



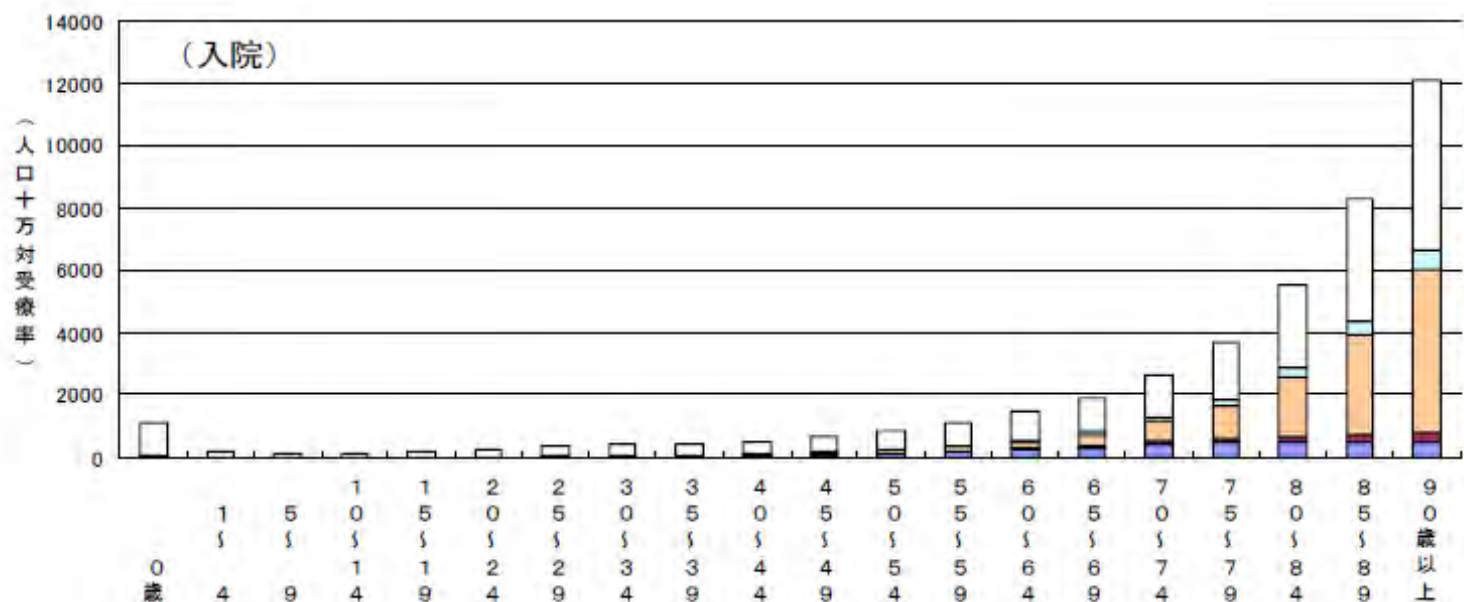
注: 2005年は国勢調査結果(年齢不詳按分人口)。



年齢階級別受療率



- その他の傷病
- X III 筋骨格系及び結合組織の疾患(関節症など)
- IX 循環器系の疾患(高血圧性疾患、虚血性心疾患、脳梗塞など)
- IV 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病など)
- II 新生物

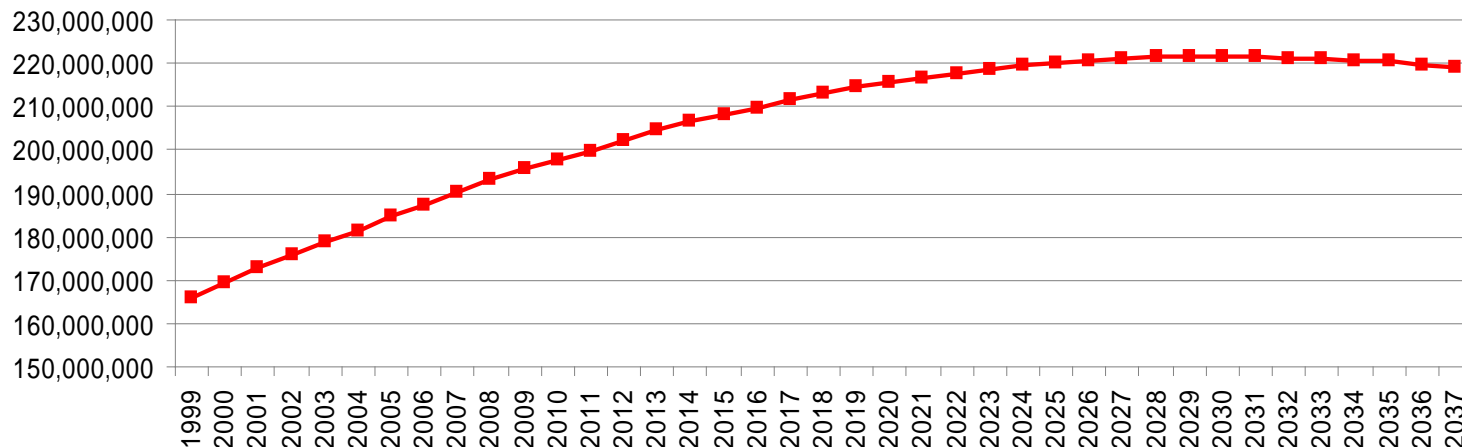


- その他の傷病
- X III 筋骨格系及び結合組織の疾患(関節症など)
- IX 循環器系の疾患(高血圧性疾患、虚血性心疾患、脳梗塞など)
- IV 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病など)
- II 新生物

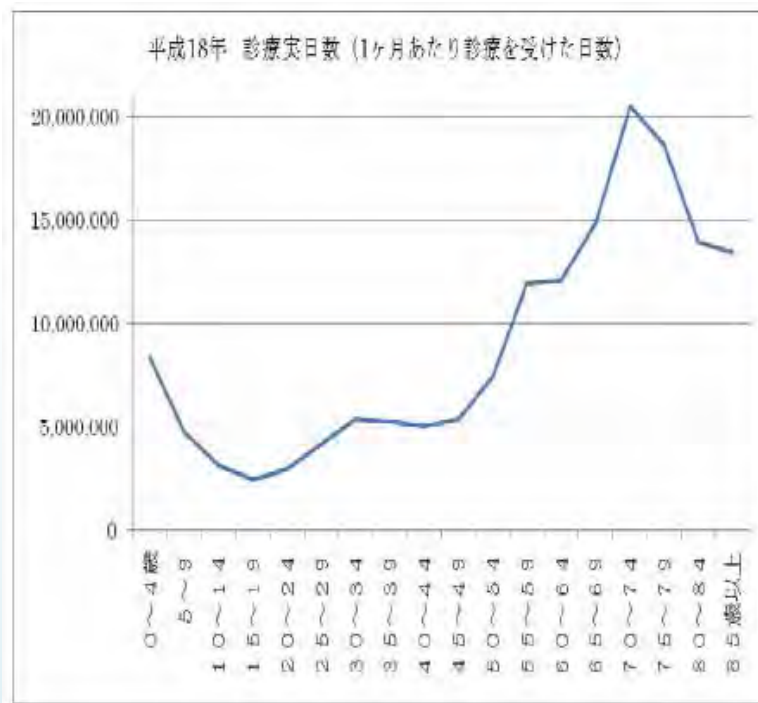
(注)「患者調査」(平成14年)により作成



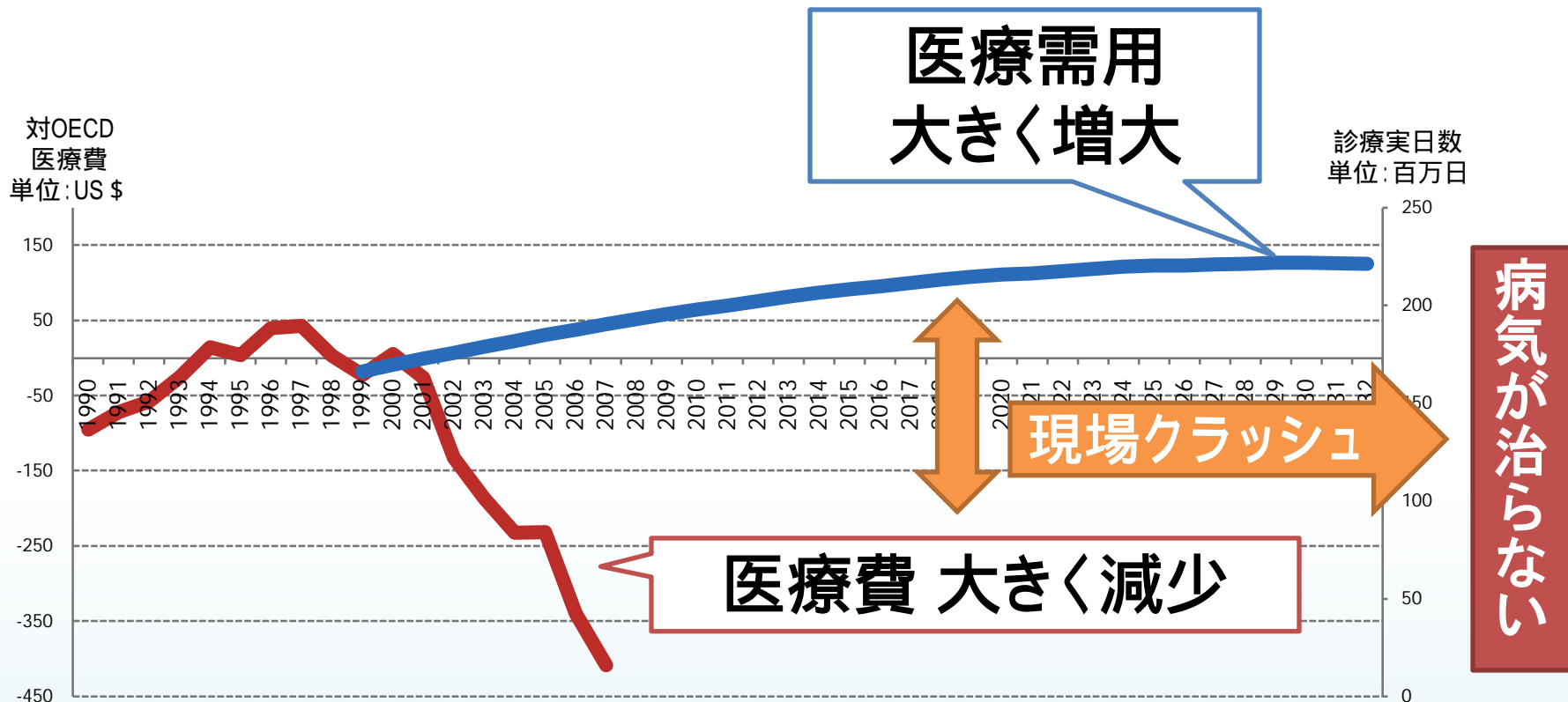
診療実日数(1ヶ月あたり日、病院・診療所)



診療実日数:入院では当月中の入院日数、入院外では当月中の外来、往診等で医師の診療を受けた日数



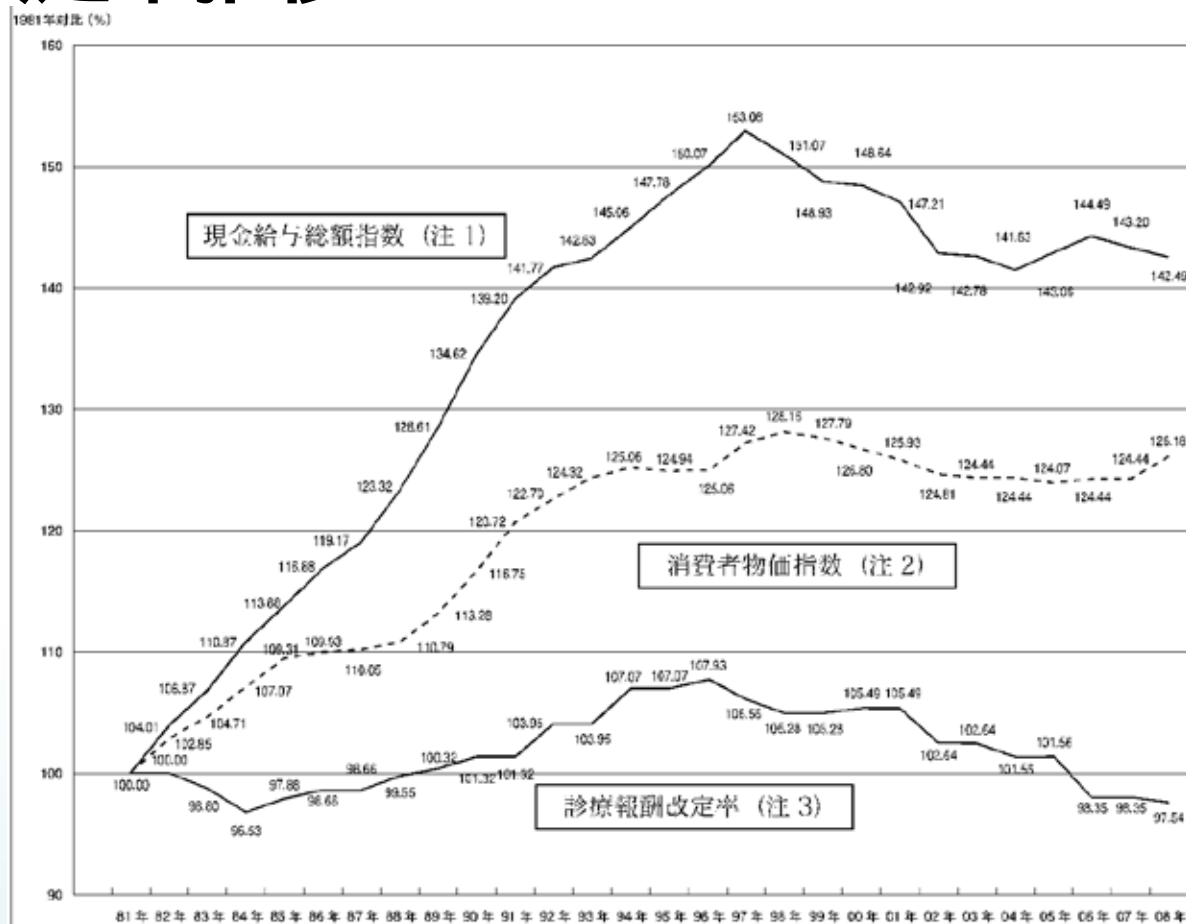
患者さんの増加と医療費の減少 (物価とジャンルが違う!!)



- ・医療費は、国民一人当たり医療費(購買力平価換算)のOECD平均値との差である。
- ・医療需要は診療実日数でみている:入院では当月中の入院日数、入院外では当月中の外来、往診等で医師の診療を受けた日数

[出所] OECD, Health Data 2009,
社会医療診療行為別調査、将来推計人口

現金給与総額指数、消費者物価指数、診療報酬総枠改定率推移



[出典] 全国保険医団体連合会
『必要な医療が健康保険証で受けられるために 2010年度改定に向けた医科・歯科診療報酬要求』
(2009年9月)

注1) 独立行政法人「労働政策研究・研修機構」HP (労働統計データ検索システム) 毎月勤労統計調査 (30人以上、一般・パート) 「現金給与総額指数」は、定期給与とボーナス等を合わせた1人当たりの平均額について、1981年を100とした場合の推移である。
注2) 総務省統計局消費者物価指数年報より作成
注3) 厚生労働省発表の改定率 (総枠) より作成

